



野鳥と昆虫のスライドを交えて

街なかの森の鳥と虫

～「独歩の森」をたのしむ～



街なか(都市)にも、小さな森が点在しています。そんな緑のスポットで、生き物たちはどのように暮らしているのでしょうか。お二人の講師には、野鳥や昆虫の興味深い様子を、豊富な調査経験をもとにスライドを交えて楽しくお話いただきます。「独歩の森」など街なかの森のたのしみ方や、貴重な緑を未来へつなぐためのポイントなどもお聞きしましょう。

とき: **3月6日(日)**
午後2時～4時30分
(1時30分開場)

ところ: **武蔵野スイングホール**
11階(レインボーサロン)
(武蔵境駅北口2分 左側線路沿い)



境山野緑地での野鳥観察の様子
※「独歩の森」は境山野緑地にある雑木林の呼び名です



講師: **植田 睦之 氏**
認定特定非営利活動法人
バードリサーチ
代表
【野鳥のお話】



講師: **金本 敦志 氏**
特定非営利活動法人
NPObirth自然環境保全部
レンジャー
【昆虫のお話】

- 定員: 100名
(申込順、事前申込が必要)
- 参加費: 無料
- 申込み: 武蔵野の森を育てる会
FAX: 0422-54-8892
Eメール: info.mnomori@gmail.com
(お名前、住所、電話番号を明記)
- 問合せ: 上記Eメール又は下記電話
090-5533-2316 (同会・田中)
0422-60-1863
(武蔵野市緑のまち推進課)

主催: 武蔵野の森を育てる会
共催: 武蔵野市
後援: 武蔵野市教育委員会

・コーディネーター: **田中 雅文** (武蔵野の森を育てる会・代表)

「街なかの森」の意義

広大な自然環境だけでなく、街なか（都市）に点在する小さな森や緑にも、さまざまな生き物たちが暮らしています。例えば、小型の猛禽類であるツミは、街のなかの公園や樹林に巣をつくって子育てをする事例が増えています。樹液に集まるカブトムシも、条件さえ整えば、持続的に繁殖していくことが可能です。

このように、都市のなかで共存している人と生き物の適切な関係を考えることで、私たちは日常生活のなかで身近な自然に親しみ、集い、子どもたちの学習にも活かすことができます。「独歩の森」も、そうした「街なかの森」として育てていきたいと思えます。



独歩の森

「独歩の森」と「武蔵野の森を育てる会」

「独歩の森」は武蔵野市立境山野緑地の中にあり、明治の文豪・国木田独歩の作品『武蔵野』にゆかりのある雑木林（森）です。「独歩の森」と呼ばれるのは、そのためです。

「武蔵野の森を育てる会」は、この雑木林の自然をより豊かに育てて未来の子どもたちに引き継いでいくため、多くの市民の方々と協力しながら保全活動に取り組んでいます。



ボランティアによる保全作業

講師のプロフィール

植田 睦之 氏

日本野鳥の会の研究員を経て、野鳥調査の専門機関である“バードリサーチ”を設立。理学博士。オオワシやツミの生態の研究、希少鳥類の生態調査、渡り鳥の衛星追跡などのほか、研究者や鳥類観察者と一緒に鳥類のモニタリング調査も実践中。著作に「ツミの分布の変遷、オオワシとオジロワシの渡り」（『日本のタカ学』東京大学出版会、2013年刊所収）など。



小型猛禽類:ツミ
(バードリサーチ提供)

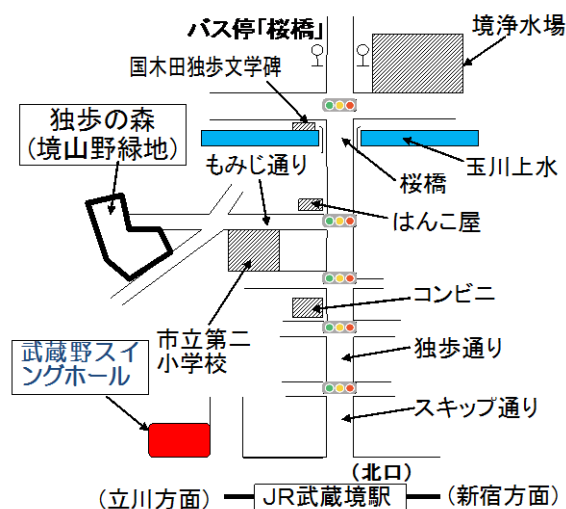
金本 敦志 氏

人と自然が共生できる社会の実現を推進する“NPObirth”（バース）の自然環境保全部で、新進気鋭のレンジャーとして活躍中。昆虫など自然環境調査の経験が豊富で、さまざまな昆虫が生き延びる「まちなかの緑」のあり方を探究している。市民に対する昆虫観察・調査のアドバイザーとして、熱心な指導と昆虫に向けた温かいまなざしには定評がある。



カブトムシ
(NPObirth提供)

「独歩の森」と武蔵野スイングホールの位置



JR中央線武蔵境駅北口より徒歩10分。同駅北口からスキップ通りを北へ直進、はんこ屋を左折して200m先にあります。西武バス、関東バスの停留所「桜橋」からは徒歩5分。（住所：武蔵野市境4-5）